

北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk

古代 和鉄の郷 北近江 2005.1.14.



追坂峠より琵琶湖・マキノ遠望



メタセコイアの並木道



マキノ高原から赤坂山

古代鉄の先進地 北近江 マキノ 2005.1.14.

先日 名神大津で雪化粧したすばらしい比良の峰々を見て、急に比良の雪ならびに雪の山郷を歩いてみたくなって、琵琶湖西岸の湖西線に飛び乗って 北近江のマキノに行ってきました。

この琵琶湖西岸に沿って伸びる比良山系から其の奥に広がる北近江 安曇川・今津・マキノの地は朝鮮半島から日本海を渡って 若狭・近江・大和を結ぶ古代のメインロード 交通路の要衝で古代和鉄の先進地。

鉄鍛冶・精錬を背景に大和に並ぶ豪族・渡来人の根拠地。

暖かくなったらこれら製鉄遺跡を訪ねようとその予備調査も兼ねて・・・

鉄に付いてはまた別にまとめますが、本当に風来坊 雪の山郷をぶらぶら歩いて 鉄の話を聞いたり、教えてもらったり、車から声をかけて貰って、駅までおくってもらったり、おまけに路線バスまでのせてもらったり・・・

北近江は人情深い温かい地。 一日雪の中に遊んで帰りました。

北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk

【 内 容 】

1. 雪の比良を眺めながら湖西線を北上
2. 近江今津
港で琵琶湖周航の歌にであい、対岸に伊吹山がそびえるのを知ってまたビックリ
3. 古代鉄の故郷 牧野へ すばらしいメタセコイアの並木道がつづいていました
冬のソナタをイメージして訪ねる人が多いという
4. 近江高島 鴨稻荷山遺跡と三尾の里 walk
日本誕生にかかわった渡来人の根拠地

参考 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群

1. 雪の比良を眺めながら湖西線を北上

今日は出発が遅かったが、どこまでといったあてもなし まあ 気楽な旅。

朝 10 時 JR 長浜行の新快速に乗り込む。京都駅で待ち時間なしで近江舞子行の普通電車。そして後を追いかけて来た近江今津行の新快速に乗り継いで近江今津へ。

比叡から蓬萊・打見 そして金糞峠・正面谷 堂満岳とつぎつぎに現れる比良の山々を眺めながら北近江へ今日は 晴れているものの雲が多く 雪の頂上部は雲に覆われ、琵琶湖をはさんだ対岸の山々もかすんでいる。でも 久しぶりに間近に見る比良の山々である。

久しぶりに足をふみいれた琵琶湖西岸 家々がたちならび、高速道路が走り、えらい変わりようであるが、昔のイメージを探しつつ、ご機嫌で雪をいただく比良をながめました。



雪の比良連峰 蓬萊・打見山 堂満・釈迦岳 湖西線の車窓から 2005.1.14.



近江舞子近傍より 比良正面谷 2005.1.14.

蓬萊駅を過ぎて滋賀。琵琶湖パレイ ゴンドラの直線路がくっきり打見の頂上へついている。この駅からは天狗杉を通過してクロトノハゲ・木戸峠と山小屋へ通った道。今は一人でのほれるやろか・・・松の浦も浜でよく夜を明かしました。

近江舞子を出て、スケールの大きな正面谷を眺めながら安曇川にかかるともう真っ白な白銀の世界。

京都から約 1 時間かからず、神戸から 2 時間ほどで近江今津。

本当に便利になったものである。新快速はここで終点。

ここから北は極端に電車が少なくなって、一時間に一本。電車を待っている間 琵琶湖へ。



雲の中の蓬萊・打見山頂上部 古代 鴨・三尾里を分ける鴨川 安曇川

2. 近江今津

港で琵琶湖周航の歌にであい、真向かいが伊吹山であることを知ってまたビックリ



JR 近江今津駅



近江今津港から 琵琶湖



近江今津 湖岸の旧街道

駅から出て直ぐのところに「琵琶湖周航の歌」記念館。琵琶湖周航の歌が館内に流れていました。長いこと歌わぬ「琵琶湖周航の歌」そして同じ節で歌う「琵琶湖哀歌」両方の歌詞と楽譜が印刷物になっていて、貰ってきました。琵琶湖周航の歌の新旧6番までの歌詞 そして 琵琶湖哀歌。もう忘れかけていた歌詞ひとつひとつに学生時代 比良の山小屋に通った時を思い出していました。館のお嬢さんとひとしきり話して このマキノ・高島地区の地図をもらう。また、港に琵琶湖周航の歌の歌碑があつたので館をとびだす。



琵琶湖周航の歌記念館



琵琶湖周航の歌が一番づつはめ込まれた道標と港にある歌碑



此の館から港まで約 300m ほどの歩道に一番づつ歌詞がかかれた道標が立っていて、其の先が今津港。竹生島・長浜への船があるのですが、今の時期は休航で棧橋は閉鎖。

向かいには 「くっきりピラミッドの形の伊吹山が見える」と聞いたのですが雲の中で見えず。

「なんで こんなところで向かいに伊吹山????? 伊吹山がピラミッドの形????」

うそやと思っていましたが、マキノからの帰り、近江今津から安曇川への車窓からは本当にピラミダルのすばらしい形をした伊吹山 そして 南のほうには鈴鹿の山々が 琵琶湖の向こうに雪をいただいてそびえていました。



琵琶湖の対岸にそびえる伊吹山



伊吹山の南に連なる鈴鹿の峰

こんな伊吹 意識したことはなく、ぼくの感覚からすると、伊吹は大津からづつと東の方の山で、大津から北近江へやってきて、伊吹が真近に見られるなんて頭になし。また、僕の頭にある伊吹山と随分イメージが違う。

東海道線は大津から東へ米原・関が原に抜けてゆくとイメージしているが、実際は琵琶湖東岸を北上 琵琶湖をはさんで、今津からは伊吹山・長浜は対岸である。



近江今津周辺からの琵琶湖

長浜・米原 東海道線から見る伊吹の南側から見る姿
堂々としたその山塊の大きさに圧倒される姿
美濃 垂井・大垣 東からから見る伊吹
幾重にも重なる美濃の山々に囲まれ、其の奥にどっしりと座る姿
琵琶湖北岸 北近江からみる北側からの伊吹
多くの山を眼下に従え 天空にひとときわ高く三角錐のいただきを突き上げる

でも こんな周りの山を従えて 聳え立つ伊吹の姿を意識したのは初めてで、改めて伊吹山の大きさにびっくりです。

今津からまた電車で 湖岸を北へ二駅でマキノ。行方には滋賀と若狭を分ける赤坂・三国山山塊が壁のようにそびえ、そこから湖岸まで、雪原がひろがる。その山裾にへばりつくように古代製鉄の里マキノの集落が見えている。 すっばりと雪の中である。



追坂峠からみたマキノ・琵琶湖北岸



近江と若狭を隔てる赤坂・三国山山塊
その山裾に広がるマキノ

3. 古代鉄の故郷 牧野へ すばらしいメタセコイアの並木道

冬のソナタをイメージして 訪ねる人が多いという



マキノ高原へ続くメタセコイアの並木道



マキノ高原 赤坂山



JR マキノ駅

駅から北へ 赤坂・三国山を越えて若狭へ続く街道筋には4km 延々とメタセコイアの並木道が続く。すばらしい並木道。僕は知りませんでした。今流行の「冬のソナタ」ブームでこのメタセコイアの並木道

を訪れる人が多いとか・・

この並木道を通して谷筋を約10分ほどさかのぼってゆき、南牧野から赤坂山の入り口にあたるどころへ上ったところがマキノ高原。さらに奥に西牧野・北牧野・白沢の集落が広がる。

私たちが学生時代には関西でゆけるスキー場として多いににぎわったところ。

赤坂山・三国山の山麓に広がるこのマキノ高原の山裾に古代の古墳群・製鉄遺跡群があり、今でも鉄滓などが拾えるという。

この道をさらに北に遡ってゆくと、三国山の肩を越えて若狭敦賀へとつながる黒川越の道である。



古代 和鉄の先進地 古墳・製鉄遺跡が山裾に散在するマキノ高原 白谷集落



このあたりは 古代 朝鮮半島から日本海を渡り、若狭から琵琶湖北岸のこの地北近江 そして琵琶湖を渡って大和へいたる古代の通商路のひとつである。

多くの渡来人がこのマキノ周辺に渡ってきて、当時もっとも重要であった鉄の自給へむけた新しい製鉄技術を伝え、大和政権と連携しながら、この地で勢力をのばしたと考えられており、その痕跡が牧野製鉄遺跡群・牧野古墳群として今に残っている。

この牧野をふくめ、琵琶湖周辺の山岳 花崗岩地帯からは古代から鉄鉱石が産出されたとかんがえられている。

その鉄鉱石を使って、鉄自給の試みが新羅・伽耶・高句麗など朝鮮半島の渡来人たちの技術を使って始まったと考えられている。

このマキノ周辺の数多くの古墳時代後期6世紀からの古墳群・製鉄遺跡群の存在がそれを示している。

また、この北近江の出身である継体天皇が大和政権成立できたのもこの北近江・越・伊吹の製鉄地帯をバックにしたためと考えられている。

しかし、この地で実際に鉄精錬が行われたという製鉄炉の出土などの直接証拠は8世紀以降であり、確認はとれていない。



高島町 鴨稻荷山古墳からの出土品
密接な朝鮮半島との関係



牧野 赤坂山山麓の斎瀬古墳

この赤坂山・三国山へ分け入ってゆく明るい谷筋の道筋 牧野町の役場のところから、牧野高原（西牧野・北牧野の集落）の入り口を通して白谷の集落の入り口まで約4kmの直線道路の両脇にメタセコイヤの樹木が等間隔で植えられ、すばらしい並木道となっている。

メタセコイヤの並木道 韓国の風景を模して作られたわけではないと思いますが、朝鮮半島と関係の深いこのマキノの地に韓国「冬のソナタ」の舞台となつたメタセコイヤの並木道をほうふつとさせる並木道があり、今「冬ソナ」ブームに乗って多くの人が訪れるという。

なにか 和鉄の道の持つ因縁めいたものを感じる。

バスで白沢集落を訪ねて

JR マキノ駅の案内所で聞いて、マキノ高原へゆく連絡バスに飛び乗り、製鉄遺跡の散らばる北牧野・白沢集落へ行く。マキノ駅の西で赤坂山・三国山から流れ下る知内川をわたり、町役場のところで北に折れ、広い谷間の道にはいって行く。一本道の直線道路の両側にまっすぐ高い樹木が立ち並びメタセコイヤの並木道に入ってゆく。

まさに 薄茶の木の回廊をまっすぐ進む感じで、真っ白な雪の田んぼの中を突き進んでゆく。

ちょっと日本離れしたすばらしい風景にしばし、見とれる。



南牧野からマキノ高原を待つ直ぐ貫くメタセコイヤの並木道 200501.14.

バスは一 二箇所寄り道しながらこのメタセコイヤの回廊を突き進んで、マキノ高原の集落にはいる。

地図でマキノ高原の一番奥の集落が白沢の集落なのでそこが終点と思っていたら、どうもおかしい。

道が東に曲がって集落をぬけて、バスは下ってゆく。沢山乗っていた人も二人になって、運転手さんに「このバスどこまで行くの 白沢集落でおりたい」というと「白沢集落はさっき過ぎた。バスはこのままマキノ駅へ行く」という。

バスはマキノ高原を巡る循環バス。もうマキノ駅まで帰って そこからタクシーで行くのがよいと教えてくれた。

おかげで マキノ高原から、現在の琵琶湖西岸と敦賀を結ぶ幹線国道にでて、海津大崎の山を越える追坂峠を越えて湖岸の海津へ下り、マキノ駅へ。結局マキノ市街を一周。

追坂峠周辺は古代近江の鉄精錬を支えた鉄鉱石が産出されたところ。そこからおそらく産出された鉄鉱石は海津から船で琵琶湖を渡り、瀬田丘陵にあった源内峠など大和政権が管理する湖南の古代製鉄遺跡群に送られたと考えられている。



追坂峠から琵琶湖北岸を望む

追坂峠から琵琶湖や周辺の山を眺めながら「ラッキー」と。。程なくマキノ駅。

駅でタクシーに乗り換えて もう一度メタセコイヤの林を抜けて 雪に埋まる白沢集落へ 白沢集落 道は除雪されているが、雪に埋まっている。

街で教えてもらった古老大村さんの古い家を訪ね周辺の製鉄遺跡について教えてもらおう。すばらしい民家 文化財の旧家である。

「こんな雪の中 案内もでけん。

すぐ横の山裾からも滓が出ているが・・・。

雪がとけたら 出直しといで。案内するから・・・」

と簡単に滓が出た製鉄遺跡の山裾を教えてもらって、ひょっと滓を手渡してもらった。

春 雪が解けて 赤坂山に春の高山植物が咲き出した頃に予定通り出直すことで、お願いして引き返す。



白メタセコイアの回廊 WALK 沢集落から古代遺跡周辺に寄り道しつつ

白沢の集落から北牧野の集落への山側の林にいくつもの製鉄遺跡が散在するという。

今はすっぽり雪の中に埋まっています。入ってゆけない。

そんな古代の製鉄遺跡に思いをはせながら、教えてもらったあたりを寄り道しつつ、メタセコイアの回廊のんびりとマキノの駅へ下ってゆく。



古代の製鉄遺跡 古墳が散在する北牧野・西牧野の赤坂山 山裾 2005.1.14.

この赤坂山周辺の山裾には約 250 基の古代の古墳が確認されており、その大半は古墳時代後期 6 世紀頃に集中して、横穴式石室を持つ比較的小さな円墳群である。

ちょうど、この頃は和政権が統一に向け邁進し、鉄の覇権をめぐって朝鮮半島と活発な交流があった時であり、この流れの中 この地が最も重要な地であった時でもある。

メタセコイアの並木道を歩いている途中で 「斉頼塚古墳」の案内板を見つけて西牧野の集落の中に立ち寄ってみるが、古墳への道も雪の中で立ち入れない。土地の人にこの竹林の向こうがそうだと教えてもらう。

この斉頼古墳は石棚が設けられているのが珍しいという。



西牧野にある斉頼塚古墳と其の内部にある石棚

再度 メタセコイアの並木道にでて 雲からの光が雪原に映えるのを楽しみながら下る。

時折 追い越してゆく車以外に誰もいないので、この景色も独り占めである。



マキノ高原を貫くメタセコイアの並木道 2005.1.14.

雪の田に足を踏み入れたり、座り込んだり、メタセコイアの回廊を楽しんでいたら、車から突然声をかけてもらった。「マキノ駅まで乗ってゆきませんか・・・ さっき 見かけて まだ ここだと大分わかりますよ」と。「一人歩いている人見るとほって置けない」という。

「色んな事件があって 載せていただくなど・・・やあ 助かります」と近江今津まで行くというお姉さんに今津までのせていただいた。本当にありがたく山里の人情に感謝でした。

4. 近江高島 鴨稻荷山遺跡と三尾の里 walk

日本誕生にかかわった渡来人の根拠地



鴨稻荷山遺跡のある高島町 鴨郷



継体天皇ゆかりの 安曇川町 三尾里

近江今津へ送っていただいたおかげで、もうひとつどうしても行きたかった場所 近江高島町の鴨稻荷山古墳そしてそれに隣接した三尾の里に行く時間ができた。

古代 この北近江と関係ふかい朝鮮半島からやってきた渡来人の根拠地がこの高島町から安曇川町にあつたという。また、継体天皇の出身地(継体天皇の父彦主人王の領地)が幼少の時をすごした三尾の里もこのあたりという。

いずれも 古代の和鉄と密接に関係する場所で、ここに朝鮮半島新羅の王墓との密接な関係を示す副葬品がそっくりそのまま大出土した鴨稻荷山遺跡がある。JR 安曇川駅から南へ約 1.5km あるいは近江高島駅から北へ約 3Km のところである。



高島町鴨郷 鴨稻荷山古墳と歴史民俗資料館 2005.1.14.

鴨稻荷山古墳は安曇川町と高島町の境を流れる鴨川の右岸に位置する鴨郷にあり、古墳時代後期 6 世紀前半の前方後円墳で横穴式石室の石棺内からは数々の副葬品が出土した。

それがそっくりそのまま朝鮮半島新羅王陵のものと同じであることが判り、この地の豪族が新羅と密接な関係にあったことを示す貴重な古墳である。

また、この鴨川周辺部から鴨川左岸から北へ安曇川にかけてが古代の三尾郷といわれ、今もこの鴨川左岸に隣接して三尾里が存在する。



鴨稻荷山古墳概要展示 高島町歴史民俗資料館 & 鴨稻荷山遺跡出土 石棺

夕闇迫る 4 時過ぎに鴨稻荷山古墳の直ぐそばに建つ高島町立歴史民俗資料館に飛び込む。

ここには鴨稻荷山遺跡で出土した副葬品が複製展示されている。

昨年夏奈良国立博物館「黄金の国・新羅 王陵の至宝」展でみたのとそっくり同じ黄金の「王冠・耳飾・靴」が展示されている。これは本当に新羅の王陵そのものでないか・・・

もつとも この頃の新羅の王陵は円墳 この鴨稻荷山遺跡は前方後円墳である。



鴨稻荷山古墳 石棺からの出土副葬品展示 歴史民俗資料館にて 2005.1.14.

学芸員の人にこの地の古代製鉄についてお聞きして今津浜大供「東谷製鉄遺跡」の資料をコピーしてもらう。

そして、夕闇迫る中 北へ 雪にうずもれた鴨稻荷山古墳へ

この歴史民俗資料館より北へ 200 ばかりで、直ぐ隣が北が鴨川の土手である。そして、この鴨川にかかる橋に「天皇橋」の名前が付いている。

この川をはさんで南が鴨郷 北が三尾里。西に広く雪の平野部がひろがり、其の向こうに 比良の峰々連なり、比良の最高峰武奈ヶ岳も顔を出している。

ここが 古代 日本誕生。大和政権の確立の過程で大きな役割を演じた北近江。

吉備・出雲が脚光をあびるが、忘れてはならない日本誕生の和鉄の道である。

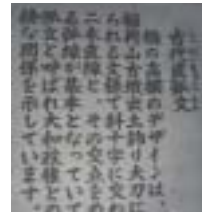
どんどん暗くなってゆく天皇橋に立って 鴨郷 三尾里の雪田をながめていました。



高島町 鴨郷



安曇川町 三尾里



鴨川 天皇橋

鴨川 天皇橋より 鴨郷 & 三尾郷 2005.1.14.夕



高島町 鴨 郷



安曇川町 三尾里

ぶらぶら 15 分ほど歩いて 安曇川の駅に着いたときにはもう 真っ暗。 姫路行の新快速が直ぐ来るとい
ので、ホームを駆けあがりました。 電車の窓から、真っ暗な琵琶湖をながめながら、今日一日 次から次へ
の展開を思い出しながら思いつきででかけた風来坊 雪の Country Walk でしたが、楽しい Walk でした。

やつぱり、出かけないとあかんあ・・・というのが実感

暖かくなったら再度北近江に訪ねよう。和鉄そして赤坂山春の高山植物を・・・

湖北町から余呉の鉄の山郷へも・・・

ちよつと Country Walk から遠のいてもややもやしていましたが、すばらしい雪の山郷の Country Walk に成
りました。雪の中に埋まる古代の古墳・製鉄遺跡にもいくつか出会い、資料ももらって これも興味津々。
古代和鉄の日本での製鉄精錬の始まりにかかわる遺跡 近江・美濃・北九州彩色古墳群とたまってしまいま
したが、まだ、頭の整理がつかず。ちよつとづつ、まとめようと思っています。

2005.1.14.夕 湖西線 真っ暗な琵琶湖を眺めながら
Mutsu Nakanishi

北近江 安曇川・マキノ 雪の山郷 Country walk
古代 和鉄の郷 北近江

【完】

1. 雪の比良を眺めながら湖西線を北上
2. 近江今津
港で琵琶湖周航の歌にであい、対岸に伊吹山が
そびえるのを知ってまたビックリ
3. 古代鉄の故郷 牧野へ
すばらしいメタセコイアの並木道がつづいていました
冬のソナタをイメージして訪ねる人が多いという
4. 近江高島 鴨稻荷山遺跡と三尾の里 walk
日本誕生にかかわった渡来人の根拠地



参考 鉄の自給を達成し大和朝廷を支えた近江国 瀬田丘陵の古代製鉄遺跡群